

## ヘブル人への手紙 第5章 8~9節

「キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみに  
よって従順を学び、完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対し  
て、とこしえの救いを与える者となり、」

御子であられるキリストは多くの苦しみを受けた。それは父なる神のみこころであった。御子であるがゆえに苦しみによって成長し、来るべき日への備えをされた。その訓練に従順であり完全な者とされた。御子に従うすべての人々ととこしえの救いを与える者として完全な者、完全で欠けのない犠牲とされたのである。

受けた多くの苦しみはご自身のゆえでなく、またご自身のためでもない。御子に従う人々のゆえに、その人々の救いのために受ける苦しみであり、訓練である。そのようにキリストは人の子として地上を生きられた。

ある晴れた日、歩道で手をつないで歩く母と男の子が見えた。彼は3、4歳ぐらいだろうか。幼稚園からの帰り道かもしれない。男の子は幾度も転ぶ。母の手に引かれながらも転んでしまう。手が支えとなっているので、道に倒れ込むことはない。しかし、手にぶらさがりながら転ぶ。転びながら前に進む。泣いたり、ぐずったりする様子はない。進むにはなかなか時間がかかる。それにめげず先に進む。こうして、母の手に引かれながら男の子は歩きを身につける。

2024年3月26日